カナダからサーカスがやってきた

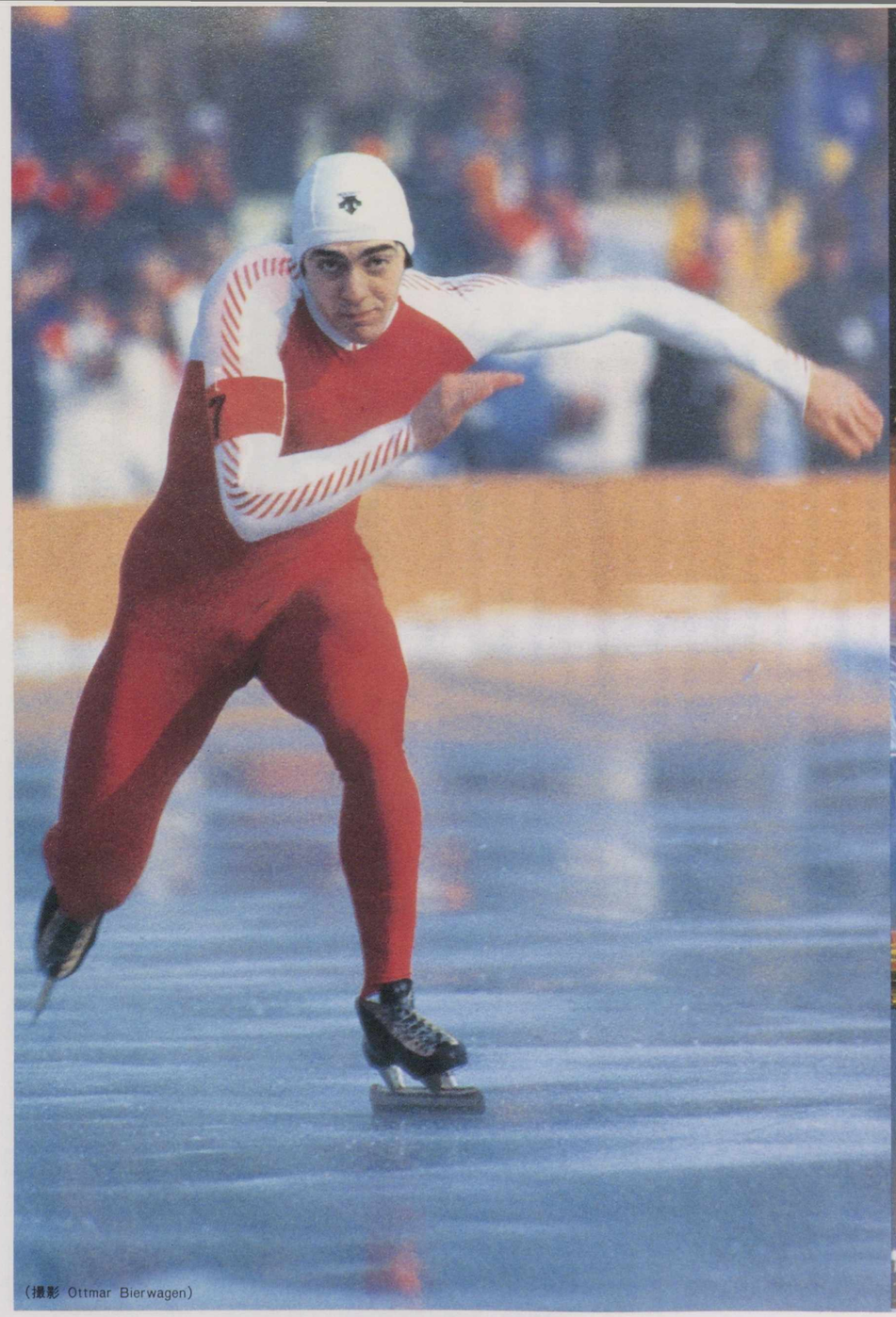
カナダからサーカスがやってきた——といっても、曲芸をやるサーカスではない。

こちらのほうは、子供たちがさまざまな科学器材を見、それに触れ、あるいは操作してみることによって、驚き、また感嘆しながら科学の原理を学ぶという趣向の、サイエンス・サーカスである。例えば、金属球に手を触れると、髪の毛がハリネズミのように逆立ってしまう（上の写真）。これはモーターでゴムベルトを回転させること（摩擦起電現象）によって発生した、五十万ボルトの静電気のいたずら。子供達は、びっくりしながら静電気について学ぶわけである。（電流がゼロに近いので、人体に害はない。）

そのほか、流体が通る断面積とその速度の関係を教える風力自転車、両方の目の角度の違いを確認する立体メガネ、人体の構造を立体的に理解しようという模型など、約七十点が展示される。

このサイエンス・サーカスは、画期的な考え方の科学博物館として世界的に知られるオンタリオ・サイエンス・センターの展示物の中から、最も人気の高いものを選んで巡回用にまとめた、いわば動くサイエンス・センター。日本では株式会社シスコが一セットを購入して、各地で展示して人気を呼んでいる。

今後の予定は、四月二十四～五月六日東京・日本橋三越本店（日本での公式オープニング）、五月十二～二十二日北海道・滝川市、五月二十五～六月四日同釧路市、あと網走市、大阪市、倉敷市、松山市、などでの展示が決まっている。



（撮影 Ottmar Bierwagen）

ブシェが〝スピード王〟にサラエボ冬期オリンピック

ユーゴスラビアのサラエボで開催された第十四回冬期オリンピック大会で、モントリオール出身のゲータン・ブシェ選手（写真）が千メートルと千五百メートル・スピードで金メダル、五百メートルで銅メダル、と大活躍した。

ブシェ（二十五歳）は、七六年のインスブルック大会、八〇年のレークプラシッド大会など、数々の国際試合で上位を占めてきたカナダ期待の選手。今回の記録は千メートル1分15秒80、千五百メートルが1分58秒36だった。

三つのメダルを獲得したブシェを、新聞は〝スピード王〟と呼んだ。冬期オリンピックでのカナダの金メダルは八年ぶり。サラエボでは、そのほか、ブライアン・オーザーがフィギュア男子シングルで銅メダルをもらった。

次回（八八年）の冬期オリンピックは、カナダのカルガリー（アルバータ州）で開かれる。地元カナダの選手がどれだけ活躍するか——。